

第2回 新「道の駅むらやま」整備基本計画検討市民会議を踏まえた対応内容

第2回市民会議で得られたご意見のうち、サウンディング調査提示資料（事業概要書）に直接反映する必要があるものについて以下のとおり対応し、民間事業者の意見・考え方をヒアリングしました。

No	頂いた主なご意見	対応方針（案）
【現道の駅の現状・課題について】		
1	従業員 1 人当たりの売上高の指標を整理した方が良い。（委員より）	⇒R4 年の部門別売上高等のデータ、及び社員数に関する資料より、現状 2500 万円/人という実態を提示
2	令和元年（コロナ前）と今年度の比較ができるようであればしてほしい。（アドバイザーより）	
【施設コンセプトとコンテンツ・導入機能について】		
3	キャンピングカーを前面に出した計画とするのであれば、給水・給電以外にもダンプステーション（汚水・排水）も設けた方が望ましい。（委員より）	⇒RV パークの必要機能としてダンプステーションを追記
4	コンセプトについて、もう少し尖った表現があってもいいのではないか。（委員より）	⇒以下を「尖りポイント」として明記 ・むらやまバラマーケット ・24h 対応フードコート ・レンタルビークル発着所・駐車場 ・ラウンジ（ローカルカフェ） ・屋内遊具（子ども一時預かり） ・雪室・夏のひんやり体験・SDGs
5	コンセプト「みつける」というテーマについて、イラストを見る限り、ただ広い芝生広場があって子どもたちがここまで遊ぶとは考えにくい。（委員より）	
6	「体験」の要素に関する記述がコンセプトの中で弱い。（アドバイザーより）	
7	インバウンドをどのように取り込んでいくか、といった観点での記載もあった方が良いのではないか。（委員より）	
8	飲食系イベント等を想定する場合には、むらやまマルシェ（屋外広場）には給水排水設備があると良い。（委員より）	⇒イベント広場等の必要機能として電気・給水・排水用の施設を追記（※自衛隊の炊き出し等にも転用可能）
9	（会終了後） これまでの市民会議の中では、ソバなどの飲食を 1 つの目玉コンテンツとして取り上げてきていたが、今回の資料を見る限り、物販に特化してしまった形に見え、飲食がないがしろになってしまった印象を受ける。（委員より）	⇒「とまる」のコンセプトイラストに、そば街道との連携や、周辺飲食店との連携など、「本物」を味わってもらうための取り組みに関する要素を記載
【目標値の設定について】		
10	飲食部門をほとんど加味していない状態で物販の売上を 2 倍近く上げる目標設定をしているが、実現性はどうか。飲食は利益率を高くすることができる部門なので、それなりに力を入れるべきなのではないか。一方で、市街地に近いという特性からこの場所ですべて体験しなくても良いという考え方も理解する。民間事業者からしたら結構ハードなので、その実現性をサウンディングで確かめるべき。（アドバイザーより）	・目標値については、バラマーケット内で飲食を行うことも明記したうえで 5.76 億円と修正。 ・取扱商品について、市内産品に限定することはしないことを明記。
11	地元の方の利用を想定したデイリーユースを見込むのであれば、計画全体にその要素を追加した方が良い。（アドバイザーより）	⇒ターゲット別の体験イメージ（提供するバリエーション）の説明資料を追加。